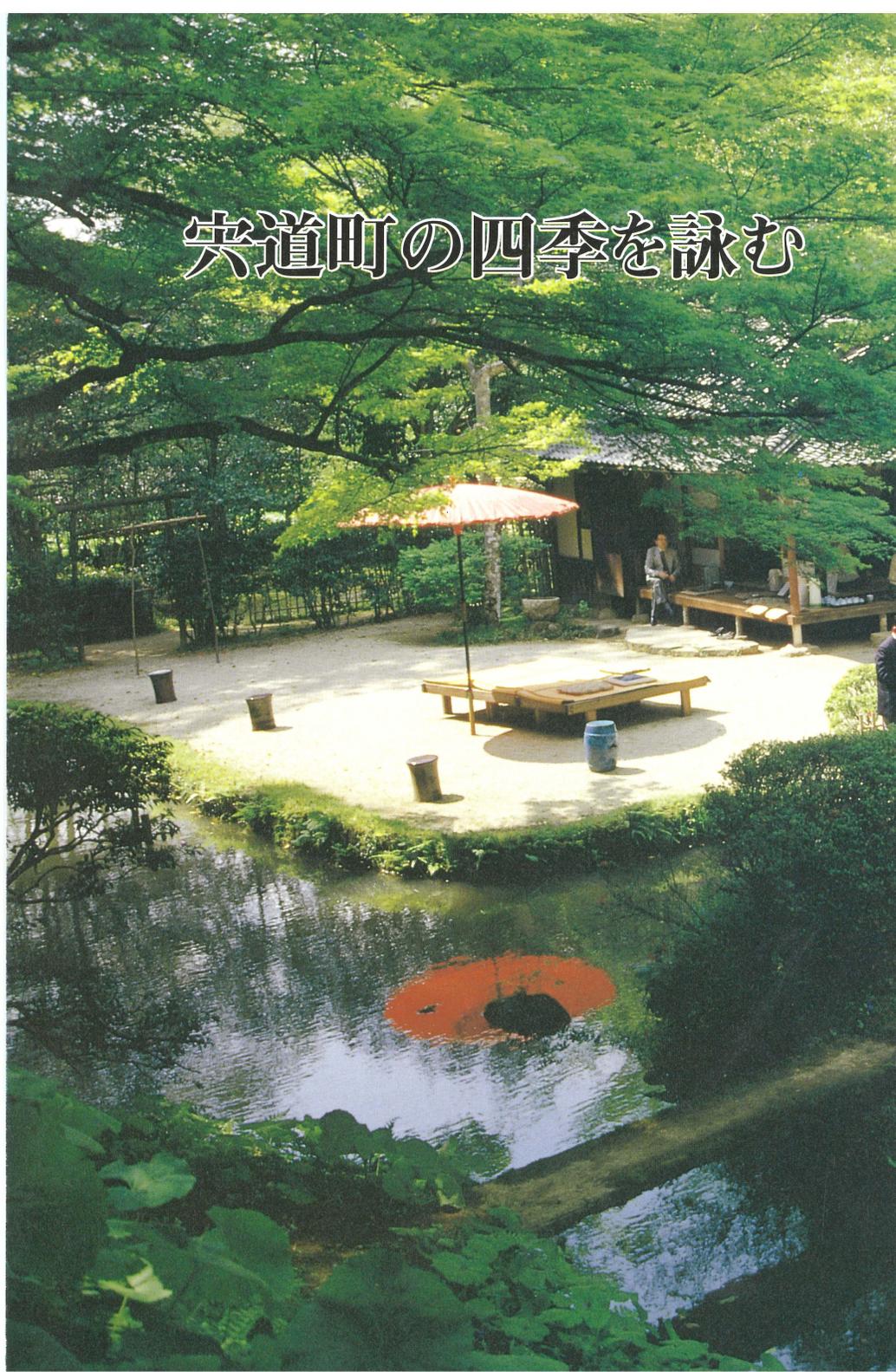


矢道町の四季を詠む



はじめに

菟古館の開館からはや十五年、山荘の投句箱も吹月忌句会もほぼ同じ歳月を刻んだと思うと感無量のものがあります。沢山の方々から沢山の句を頂いたことに心から感謝申し上げます。このたび、その時々々の佳句、秀句の中から、さらに宍道俳句会有志の方にお願ひして春夏秋冬から四百句を選び、「宍道町の四季を詠む」にまとめました。山荘、菟古館を中心に、宍道の里の四季折々の情景が様々な視点や感性で捉えられていて、新鮮な驚きや発見に喜びが湧いていきます。

この句集を手にも、これからも山荘の散策、菟古館の展示をお楽しみいただければ幸いに存じます。

平成十三年 春

八雲本陣記念財団理事長 木幡 修 介

目次

はじめに

春 一

夏 一三

秋 二五

冬 三五

木幡吹月・藤原杏池兩先生遺詠 四三

金森柑子先生近詠 四三

菟古館・木幡山莊投句年表 四五

編集後記

春



(木幡山莊 藥師堂)

幾世代ながめてきたり泥天神	木幡山荘	青木紅圭	(斐川)
藤の花風に逆らふこと知らず	木幡山荘	庄司春芳	(宍道)
衿元を辛夷が散れり車椅子	木幡山荘	原ちあき	(出雲)
山荘に春日大きく鳶の舞ひ	木幡山荘	高瀬春枝	(出雲)
黄蝶のひらりひらりと太鼓橋	木幡山荘	木田節子	(大田)
大蛇巻きせる藤蔓の若芽かな	木幡山荘	中村梨城	(安来)
蚤の市あれこれ探し春惜しむ	木幡山荘	福田はるえ	(出雲)
行く春の山荘にあり蚤 <small>のみ</small> の市	木幡山荘	飯田きみえ	(斐川)
山荘の闇より出でし黒揚蝶	木幡山荘	佐藤真理子	(松江)
思惟仏のお顔欠けをり濃山吹	木幡山荘	池田都瑠女	(松江)

玉垣のいさぎよくつづききんぼうげ

木幡山荘

高瀬春枝

(出雲)

今年竹土に未練の皮落ちて

木幡山荘

玄行蔦家

(松江)

もののふの心のごとくつつじ燃ゆ

木幡山荘

庄司春芳

(宍道)

風強く蝶つんのめりつつ翔てり

木幡山荘

兼折風外

(松江)

落椿踏まねばくぐれぬ門くぐる

木幡山荘

武永江邨

(斐川)

木の芽風入れて箸割るそば処

百歳庵

田中八千恵

(大田)

春龍胆踏むまじ荘の径ひろふ

木幡山荘

芦田荷香

(大東)

不老門潜り卯月の池めぐる

木幡山荘

元田悦子

(広島)

初蝶や籬を越して荘に消ゆ

木幡山荘

糸川ふみを

(宍道)

春光をもろに展げていかり 草ささ

木幡山荘

福島家紋子

(宍道)

森出づる蝶の白さと軽さかな

木幡山荘

宮本照枝

(米子)

蹲へばそこに風あり落椿

木幡山荘

有田きく子

(斐川)

運一の遺作展見て春惜しむ

菟古館

田中伸緒

(宍道)

笹垣の新芽生き生き不老門

木幡山荘

倉橋静枝

(松江)

庵守の他所ゆき言葉草の餅

木幡山荘

森山世都子

(松江)

古池におたまじゃくしの浮き沈み

木幡山荘

宇佐美朝士

(出雲)

春風に心洗わる野点かな

木幡山荘

相川昭子

(春日井)

走り根を足裏に蝶の案内する

木幡山荘

脇谷一司

(広島)

山荘へ日照雨の道の落椿

木幡山荘

林藻花

(湖陵)

蹲踞に浮くとき椿紅濃き

木幡山荘

江本黒礁

(松江)

旅に聞く出雲なまりや吹月忌

木幡山荘

斉藤啓治（三隅）

春雨の吹月堂に茶を習ふ

木幡山荘

高木和（実道）

のぞき窓ある井戸蓋や落椿

木幡山荘

松田愛子（出雲）

荘遅日四肢投げ出して猫眠る

木幡山荘

神田夢城（平田）

野仏の苔に包まれあたゝかし

木幡山荘

金山栄子（松江）

春昼や枝折戸きしみ客招ず

木幡山荘

渡部鯨舟（松江）

露座仏ののっぺらぼうや山笑ふ

木幡山荘

布施里詩（斐川）

落椿 また新しき落椿

木幡山荘

土江江流（松江）

茶事すゝむ吸光庵の春灯

木幡山荘

原黙耕（斐川）

春時雨吊り行灯の灯も淡く

木幡山荘

富田きよし（斐川）

春日さす文政の代の不動尊

木幡山荘

江角米子 (斐川)

一片の雲を映して池温む

木幡山荘

原 菊枝 (斐川)

銅鐸どうたくに欠けし邪視文春深し

菟古館

有田きく子 (斐川)

吹月堂思わぬ雪となりにけり

木幡山荘

山口草雨 (平田)

連翹れんぎょうや吸光庵を明るうす

木幡山荘

坪内寂山 (加茂)

陶榻に色弾ませて椿落つ

木幡山荘

美柑みつはる (西伯)

一人来て木の芽の風にしたしめり

木幡山荘

金岡美智江 (松江)

紅梅のほかは色なき宿衾すくね墓

菅原天満宮

矢田笈甲子 (出雲)

金髪かねかみの娘も侍り梅の寺

岩屋寺

原 ちあき (出雲)

昼すぎの庵の静けさ落椿

木幡山荘

神谷美枝子 (出雲)

落椿よけて潜りぬ不老門

木幡山荘

四方田良枝

(出雲)

走り根につまづきやすし落椿

木幡山荘

塩野邦江

(大東)

天狗面掲ぐ大土間吹月忌

八雲本陣

経種美恵子

(大東)

嵐去り心字の池の落椿

木幡山荘

田中伸緒

(宍道)

萌ゆるもの萌えて吹月忌なりけり

木幡山荘

木幡花人

(斐川)

目の前に落ちしばかりの椿かな

木幡山荘

武永江邨

(斐川)

かんばせに由々しき罅ひびや享保雛

菟古館

久屋三秋

(出雲)

春愁や父のおもかげ泥天神

菟古館

錦織玲子

(斐川)

古書珍器春氣溢るる菟古館

菟古館

安田菜翁

(宍道)

一天を支えて銀杏芽吹きけり

木幡山荘

大沢ハマ

(出雲)

浮世絵に父ありし頃吹月忌

菟古館

安食久代

(松江)

立つ石や座る石あり山笑ふ

木幡山荘

富岡幸子

(斐川)

知らず踏む土筆つくしに声をかけしこと

木幡山荘

江本黒礁

(松江)

母親と手話で話す子つくづくし

木幡山荘

安部弘範

(松江)

ものの芽のきらめき初めて榻七つ

木幡山荘

高橋セキ子

(斐川)

山荘の池に名画の春もえる

木幡山荘

宇佐美晶子

(出雲)

古道のみやまかたばみ踏み通る

木幡山荘

中村すみ子

(大田)

ひとときの心やすまるふきのとう

菟古館

佐藤文子

(出雲)

三月の水の匂ひや吹月忌

木幡山荘

富岡秋美

(斐川)

枯梢薄日刻みてもらしけり

木幡山荘

小村みずえ

(斐川)

椿一つ心字の池に浮びけり
 眼一つに雅びし性や享保雛
 隧洞すいどうに水音かそけし落椿
 名木も老いて山荘春浅し
 万本の笹にふんわり春の雪
 木もれ日の山道うれし落椿
 山城の尾根ゆるやかに春の雨
 連山の添寝の如く春の湖
 十二神将力みて在す地虫出づ
 幾代々いくだいゝのものみな寂と吹月忌

木幡山荘
 和 田 亮 介 (大 阪)
 蒐古館
 南 紫 香 (斐 川)
 木幡山荘
 芦 田 荷 香 (大 東)
 木幡山荘
 矢 野 吐 翠 (宍 道)
 木幡山荘
 田 中 紀 代 香 (宍 道)
 木幡山荘
 深 野 加 津 子 (松 江)
 宍道町
 本 常 信 代 (宍 道)
 宍道湖
 岡 本 毬 子 (宍 道)
 木幡山荘
 森 山 暢 子 (松 江)
 木幡山荘
 江 角 米 子 (斐 川)

岩不動満山の樹々春の声	木幡山荘	木幡鷺城	(宍道)
ゆく春の淡き影添ふ古ランプ	菟古館	山根仙花	(斐川)
吹月堂おぼろに昼の灯かな	木幡山荘	大野チエノ	(松江)
尺八の音色ほのかに春館	菟古館	錦織和子	(加茂)
春愁や玻璃の中なる琴の爪	菟古館	小林梨花	(平田)
堤土手孫の土産に土筆つむ	木幡山荘	太田実	(宍道)
囀りをそびらに聞かや心字池	木幡山荘	伊藤英子	(宍道)
山荘の走り根太し鳥交る	木幡山荘	曾田宣	(宍道)
バス停に女一人の梅の里	菅原天満宮	曾田勝	(大社)
囀りを聞く補聴器の耳傾げ	木幡山荘	林藻花	(湖陵)

水底の数珠子もつれていたりけり

木幡山荘

米井たけし

(松江)

春寒し番茶をどうぞの旗を吊り

木幡山荘

山崎朝子

(平田)

蛸^か蚪^との紐^に絡^み埋^れ草

木幡山荘

野津節

(松江)

芽吹かんと古木凜とし庭を占む

木幡山荘

上代藤江

(大東)

案内の立札の字も似て吹月忌

木幡山荘

清水一秀

(宍道)

庭掃けば影にもぼつり木の芽張る

木幡山荘

稲田信

(木次)

吹月忌に落ちし椿を踏みまじく

木幡山荘

森山比呂志

(大東)

山の香にしばしひたれり吹月忌

木幡山荘

目次翠泉

(宍道)

椿落つ寂けさをもて忌を修す

木幡山荘

土江輝子

(斐川)

本陣の三和土に及ぶ彼岸冷

八雲本陣

富田郁子

(松江)

世変りを見詰める眼御殿雛

八雲本陣

太田江女（宍道）

石橋の反り柔らかし春の荘

木幡山荘

上田勉（松江）

五風十雨梅の蕾にとどこほる

菅原梅の木教会

内田芝石（米子）

門前に手作り豆腐水温む

菅原天満宮

安達恵美子（松江）

菅公の生まれし里に東風やさし

菅原天満宮

遠藤幸子（松江）

吹月翁偲ぶ筆跡梅の宮

菅原梅の木教会

高木朱星（松江）

仏彫る野積の石に芽木の雨

菅原天満宮

田村清乃（松江）

梅真白菅原観音金色に

菅原梅の木教会

原あや子（松江）

墓穴を出づころころと御神水

菅原天満宮

森田みちほ（松江）

巢作りの鳥の影さす産湯の井

菅原梅の木教会

矢野きよ子（松江）

社日肥積みて匂へり納屋の闇

菅原天満宮

山本直子

(松江)

墨の香の満つ書道塾梅白し

菅原梅の木教会

足立しげ女

(大東)

夏



(宍道町菟古館)

徽かびの堂十二神将欠けてゐず

木幡山荘 堀江典子 (米子)

夏椿落花の沈む砂紋かな

木幡山荘 大野佳子 (松江)

まくなぎをはらひ吹月堂に入る

木幡山荘 比津青湖 (松江)

竹林を裂きて瀑布ぼくの音高し

木幡山荘 渡部鯨舟 (松江)

睡蓮の百花を咲かせ心字池

木幡山荘 梶川裕子 (松江)

さゝくれし虚無僧天蓋風入るる

菟古館 山本ノブ子 (松江)

不老ろう門もんくゞる一步にえごの花

木幡山荘 金岡美智江 (松江)

今日一会あやめの苑の茶席かな

木幡山荘 佐々木浩子 (松江)

神将の足踏んばれる青嵐

木幡山荘 荒木緋紗女 (松江)

野仏の半眼やさし青葉風

木幡山荘 後藤スミ子 (松江)

万緑に沈む一庵暗からず

木幡山荘

米山利子 (米子)

船徳利でんと座れる梅雨館

菟古館

佐藤明子 (斐川)

山荘の一枚岩に風薫る

木幡山荘

佐藤武子 (宍道)

ほていあおひうすむらさきの風生めり

木幡山荘

倉橋静枝 (松江)

弥陀の手にひしと縫りて蝉の殻

木幡山荘

小村武子 (松江)

石橋の下にも睡蓮一花あぐ

木幡山荘

中沢かつ子 (八雲)

ものゝけのかすかな気配夏木立

木幡山荘

磯部染歩 (松江)

板橋を潜りぬけつゝ糸とんぼ

木幡山荘

目次翠泉 (宍道)

なんとなく荘に遊びて道をしえ

木幡山荘

太田江女 (宍道)

山荘の使わずの井戸いもり浮く

木幡山荘

坂口恵子 (鳥取)

山莊の緑亡妻の夢を抱く	木幡山莊	柳原義弘	(松江)
隱沼を安住の地としあめんぼう	木幡山莊	安達惠美子	(松江)
蹲踞に無作為の色や額の花	木幡山莊	糸賀雲従	(宍道)
夏草や庵に置かれし草刈機	木幡山莊	金山栄子	(松江)
山莊に風のみちあり夏木立	木幡山莊	小村ふみ	(斐川)
煙草盆ひきよせ座る椎若葉	木幡山莊	曾田宣	(宍道)
木もれ日に亀甲羅干す山の池	木幡山莊	小川幹雄	(松江)
百千鳥聞こゆる方へ歩を運ぶ	木幡山莊	佐古喜久子	(出雲)
蜷の水うごく落葉のありにけり	木幡山莊	土橋石楠花	(出雲)
芽木の影水面に淡し吹月忌	木幡山莊	栗原稜歩	(大東)

胸の悔いいつか消えゆく若葉風

木幡山荘

船谷清子 (松江)

若葉雨静かに人を佇たしむる

木幡山荘

飯塚貞子 (平田)

山荘を包む緑の風やさし

木幡山荘

大木たつ女 (松江)

さみどりの色もつ風や菟古館

木幡山荘

土江江流 (松江)

蚊遣香燃え尽き残る渦白し

木幡山荘

南紫香 (斐川)

絵手紙に訂正おかし夏館

菟古館

小林湖村 (宍道)

毒舌も今はなつかし風薫る

木幡山荘

玄行蔦家 (松江)

風音の届かぬ池や水すまし

木幡山荘

南紫香 (斐川)

ふるさとの味まるやかに甘露竹

木幡山荘

松本文子 (宍道)

吹月堂木陰も涼し甘露竹

木幡山荘

岡本善行 (広島)

ひしひしと万緑水を暗うしぬ

木幡山荘

鷺野蘭生

(安来)

梅雨晴間出雲弁で説くおかめ笹

木幡山荘

柳浦清枝

(大田)

蚊遣焚く縁に明治の煙草盆

木幡山荘

南紫香

(斐川)

山荘や山気襲ひぬ夏座敷

木幡山荘

山本路艸

(境港)

若葉風ちらちらみゆる野点傘

木幡山荘

小田香柿

(松江)

濡縁にポット置かれて薄暑かな

木幡山荘

杉原房枝

(斐川)

開け放つ堂縁日がな蝉しぐれ

木幡山荘

富岡秋美

(斐川)

政久の遺愛の笛やお風入れ

菟古館

小玉えつ女

(米子)

石に彫る鬼も仏や夏落葉

木幡山荘

佐藤喜代

(平田)

長寿泉蓋にこぼれしえごの花

木幡山荘

今若藤子

(出雲)

薬師堂水音絶えぬ木下閣

木幡山荘

門脇 悠内子

(出雲)

蹲踞に梧桐あお桐の影余りけり

木幡山荘

糸賀 雲従

(宍道)

池のやや暗きを好み水馬

木幡山荘

久屋 三秋

(出雲)

睡蓮の開ききつたる波在らず

木幡山荘

江角 米子

(斐川)

莊守のやさしき笑顔若葉風

木幡山荘

満田 叔子

(平田)

管弦のテープを流し風薫る

菟古館

布施 里詩

(斐川)

一陣の風に若葉の裏表

木幡山荘

山田 保子

(松江)

狐の提灯咲いてこれより薬師堂

木幡山荘

藤原 妙子

(松江)

青嵐茶掛けの軸を揺らしけり

木幡山荘

糸川 ふみを

(宍道)

涼風に昼を灯して吹月堂

木幡山荘

伊藤 英子

(宍道)

伸びやかな木々の若葉に帽子脱ぐ

木幡山荘

秀衡 秀子

(安来)

滝飛沫岩盤に風生まれけり

岩屋寺

井筒 生子

(松江)

僧の妻かくし化粧に夏の萩

岩屋寺

佐藤 久代

(出雲)

地獄絵図見て花沙羅に洗心す

岩屋寺

須崎 保子

(松江)

瀧涼しあたりの草木ゆれどほし

岩屋寺

生西 明子

(米子)

戦国の哀話持つ袈裟風入るる

豊龍寺

矢野 きよ子

(松江)

風入れや九条大袈裟燦然と

豊龍寺

安達 恵美子

(松江)

梅雨闇の一隅睨み毘沙門天

豊龍寺

三代 吐亭

(平田)

神蹟へ胸突坂や道をしへ

女夫岩遺跡

佐藤 やえ子

(出雲)

風土記野の宮跡へ続く夏帽子

女夫岩遺跡

渡部 昌石

(出雲)

猪岩に差すうつし世の新樹光

女夫岩遺跡

石飛明子

(大社)

蝉の声こもれ日のごと降りにけり

木幡山荘

石橋優明

(大阪)

山荘の藤棚下に昼弁当

木幡山荘

杉原美代子

(安道)

蝉しぐれ吹月堂の木の間風

木幡山荘

泉ヤエ子

(湖陵)

行く夏を惜しみ山荘蝉鳴けり

木幡山荘

石田礼子

(三刀屋)

野点傘うつれる水にあめんぼう

木幡山荘

安達波外

(松江)

緑蔭の池に細波起ち易し

木幡山荘

内田芝石

(米子)

山荘の雨意の深きにひつじ草

木幡山荘

門脇由女子

(松江)

山荘の縁の円座や梅雨じめり

木幡山荘

大野桂子

(松江)

池に写る空に遊べり水馬

木幡山荘

室崎和子

(松江)

飽かず見る瓢斎展や荘涼し

菟古館

佐藤愛子（大東）

山荘に汲むはねつるべ音涼し

木幡山荘

藤原信孝（木次）

梅雨明けて荘を賑わす写生の子

木幡山荘

高木和（実道）

浄土とも思へる山荘蝉時雨

木幡山荘

朝津文子（出雲）

不老門われを誘ふ蝉時雨

木幡山荘

秀衡秀子（安来）

不老門くぐりてよりの蝉時雨

木幡山荘

中山和子（浜田）

みせかけで終わる雷雲吹月堂

木幡山荘

曾田宣（実道）

青^{つた}蔦の袈裟がけ絡む露座仏

木幡山荘

藤原秋嶺（木次）

十葉のたけて小さく布袋仏

木幡山荘

森田迦邑（松江）

風流を肌で知ろうと蚊に喰われ

木幡山荘

二宮めぐみ（甘木）

蝉時雨四百年を鳴き継げる

木幡山荘

佐藤愛子（大東）

出雲路に時みつけたり梅雨の庵

木幡山荘

大多和俊行（東京）

菟古館母をしのんで蝉時雨

菟古館

岩田圭子（瑞穂）

新しき匂ひのありぬ夏の萩

木幡山荘

小玉三嶺（米子）

人語なき山荘睡蓮名残り咲く

木幡山荘

南紫香（斐川）

野立傘抱くがごとく夏楓

木幡山荘

江角米子（斐川）

あめんぼう恋のトラブル水輪乱れ

木幡山荘

松尾勝子（米子）

時々は風にただよふ水馬

木幡山荘

三浦真実子（浜田）

百年を巻く藤づるに蝉時雨

木幡山荘

野尻定亨（豊中）

蝉しぐれ庭掃く人と共にあり

木幡山荘

水上洋子（広島）

蝉啼いて山莊幽を深めけり

木幡山莊

江本黒礁（松江）

山莊の主の留守の蝉時雨

木幡山莊

遠山丁字（松江）

煙草盆置かれて涼し吸光庵

木幡山莊

庄司春芳（実道）

胎の子も聴き寝入りけり蝉時雨

木幡山莊

老松美由紀（米子）

山莊に藪蚊打ちたる音消ゆる

木幡山莊

池田功子（斐川）

花終へし藤は天より蔓下ろす

木幡山莊

保科美代子（斐川）

箒ほうき目に靴痕深く梅雨しとど

木幡山莊

星野弘子（斐川）

梅雨雲を払ふ山路の不動尊

木幡山莊

三加茂勝峰（斐川）

きみと来て六十路の恋やせみしぐれ

木幡山莊

美月波利宝（松江）

ここだけは縁の涼しさ吹月堂

木幡山莊

田中由紀子（浜田）

蚊取香たいて山荘客を待つ

木幡山荘

田中静籠

(浜田)

蜻蛉の群れて人無き野立傘

木幡山荘

飯田きみえ

(斐川)

夏落葉して山荘の池深め

木幡山荘

岡野一甫

(出雲)

トカゲ見て落ちつく心乱れけり

木幡山荘

龍味智子

(大田)

山荘の蚊にさされたる茶席かな

木幡山荘

斉藤白雨

(三隅)

湖抱くわが故里に夏来たる

宍道町

永瀬まり

(宍道)

秋



(木幡山莊・窟^{くつほとけ}仏)

八月の色に変わりし荘の木々

木幡山荘

山本 勲

(宍道)

野仏の頭を撫でてねこじやらし

木幡山荘

片寄 春浪

(松江)

野点傘に膝寄せ合ひて紅葉冷

木幡山荘

原 邦子

(松江)

頬染めて崖の紅葉を仰ぎ見る

木幡山荘

小村 武子

(松江)

散策のうちに日暮れし秋の園

木幡山荘

金岡 美智江

(松江)

鑿^{のみ}跡の奈落に深し草紅葉

木幡山荘

富田 きよし

(斐川)

菊薫る吸光庵の昼灯

木幡山荘

坪内 寂山

(加茂)

山荘の閉まりてよりの虫時雨

木幡山荘

糸川 ふみを

(宍道)

文字浮きし荘の由来記秋深む

木幡山荘

小林 湖村

(宍道)

久々に訪ふ山荘の秋深し

木幡山荘

高木 草央

(加茂)

露座仏の膝に溜りし木の实かな

木幡山荘

水 邦子 (平田)

山荘の縁に座りて萩を見る

木幡山荘

中林チエ子 (松江)

宍道湖の秋夕焼を飛機昇る

宍道湖

渡部鯨舟 (松江)

木犀の香に一服や吹月庵

木幡山荘

田村清乃 (松江)

小鳥来る本陣の世の屋敷神

木幡山荘

山本ノブ子 (松江)

山荘や肩にふはりと赤とんぼ

木幡山荘

山田幸子 (出雲)

とんぼ飛ぶ熱き番茶を縁先に

木幡山荘

寺本民子 (松江)

はね釣瓶使わぬままや小鳥来る

木幡山荘

須崎保子 (松江)

吹月堂七草を活け昼灯す

木幡山荘

浅野賀子 (松江)

山荘の秋の日のさす豊かな

木幡山荘

梅 暎子 (松江)

返り咲くかきつの露や四つ目垣	木幡山荘	矢野きよ子	(松江)
山荘の火袋白し法師蟬	木幡山荘	山本清子	(松江)
山荘に来合せ拾ふ銀杏の実	木幡山荘	原あや子	(松江)
山荘の櫨 <small>はせ</small> より紅葉生まれり	木幡山荘	原千恵子	(松江)
山荘の水引き草の色濃ゆく	木幡山荘	富岡木実子	(東出雲)
心字池蜻蛉 <small>かかげ</small> 水面をはなれざり	木幡山荘	陰山すみ子	(斐川)
彼を待つ一輪挿に曼珠沙華	木幡山荘	青木紅圭	(斐川)
秋の蟬霖雨の山に絶ゆるなし	木幡山荘	高木朱星	(松江)
山荘の薬師へ径や穴惑	木幡山荘	布施里詩	(斐川)
不老門入りてよりの秋の風	木幡山荘	伊藤麦城	(斐川)

不老門くぐれば急に秋の声

木幡山荘

土江義雄

(加茂)

秋蟬の声背にくぐる不老門

木幡山荘

太田克己

(高松)

男郎花雲の流れにそうてゆれ

木幡山荘

伊藤寿美恵

(出雲)

法師蟬雲足迅き庵の池

木幡山荘

村上徹

(隠岐)

木犀の香に誘われて荘に入る

木幡山荘

渡部昌石

(出雲)

荘内の琴の音色に秋時雨

木幡山荘

田中京子

(安道)

訪れし山荘早も薄紅葉

木幡山荘

満田叔子

(平田)

久に訪ふ雨の山荘薄紅葉

木幡山荘

足立敬子

(平田)

出雲路に古りたる庵や金木犀

木幡山荘

平川成夫

(因島)

金色の家紋の什器秋灯下

木幡山荘

渡部鯨舟

(松江)

盆帰り故郷の静けさしみじみと

木幡山荘

笠井弘海

(東京)

蝉時雨去りゆく秋の名残りかな

木幡山荘

米田政男

(東京)

荘の道風を通して萩踊る

木幡山荘

杉井きみえ

(宍道)

陶榻やしほから蜻蛉身じろがず

木幡山荘

福村節子

(松江)

山荘に厄日の去りし湖明り

木幡山荘

波多野弘秋

(大田)

山荘をめぐりて共に秋に逢ふ

木幡山荘

土江容子

(平田)

虫食いの梧桐の葉は散りかねて

木幡山荘

糸賀雲従

(宍道)

散る紅葉を蒼き池の面迎えたり

木幡山荘

矢萩正喜

(札幌)

秋霖に両ひじを張る池かえり楓

木幡山荘

土江ひろ子

(斐川)

萩そよぐ心字の池や落葉船

木幡山荘

福島家紋子

(宍道)

山荘に動くものなく秋深し

木幡山荘

五百川 福勇

(宍道)

新涼や石紋光る唐硯

菟古館

富岡 秋美

(斐川)

踏みしめる歴史の石に萩こぼる

木幡山荘

宮田 行湖

(松江)

法師蟬けふは木梢の遠くなり

木幡山荘

山本 勲

(宍道)

山荘の落葉しぐれを浴びてゆく

木幡山荘

神田 夢城

(平田)

毛氈もへんに客待きやくまちち心草こころぐさの花

木幡山荘

安達 恵美子

(松江)

石も木も彫れば仏や秋の風

木幡山荘

土江 江流

(松江)

紅葉冷山荘の庭奥知れず

木幡山荘

由木 みのる

(米子)

山荘のひねもす一人落葉搔

木幡山荘

佐藤 夫雨子

(米子)

花石路やここにも小さき仏在す

木幡山荘

橋本 喜美

(西郷)

毒茸育て倒木生きてをり

木幡山荘

長谷川 杜人

(安 来)

山荘は門なく親し茶の咲けり

木幡山荘

木幡 花人

(斐 川)

太鼓橋影を落として池澄めり

木幡山荘

木田 節子

(大 田)

菊咲くや古着市場の人ばかり

木幡山荘

青木 敏子

(斐 川)

穴惑^{あなまどい} 見て句心の逃げにけり

木幡山荘

原 久南

(安 来)

吹月をなつかしむかに小鳥来る

木幡山荘

岡坂 あさの

(松 江)

木の実落つ喧^{けん}噪^{そう}遠し長者庭

木幡山荘

須田 愛子

(斐 川)

堂縁に秋日集まる小座布団

木幡山荘

大西 三枝子

(米 子)

版画なる裸婦の息づく秋灯下

菟古館

土江 ひろ子

(斐 川)

二時を指す明治の時計秋惜しむ

木幡山荘

高橋 セキ子

(斐 川)

山莊にしぼしの秋思朱傘影

木幡山莊

南 紫香 (斐川)

古井戸へ飛石七つ木の実落つ

木幡山莊

小田 香柿 (松江)

笹垣のこぼさぬものに露の玉

木幡山莊

小村 武子 (松江)

ぎんなんの落ちて俗世となりにけり

木幡山莊

山本 勲 (安道)

蛸ひぐらしに日の班ゆるる長柄かな

木幡山莊

芦田 荷香 (大東)

庵の裏ちろに昼の闇をおく

木幡山莊

森山 比呂志 (大東)

簪かんざしに秋灯集め菟古館

菟古館

原 育子 (大東)

走り根に亦も蹟く穴まどひ

木幡山莊

紫崎 巳千子 (出雲)

虚無僧 凶画人も故人秋思かな

菟古館

太田 路子 (松江)

船小屋に柿も干されて休漁日

宍道

富田 きよし (斐川)

散策の紅葉手帳に栞^{しお}りけり

木幡山荘

金岡美智江

(松江)

蹲踞を洗ふ荘守秋深む

木幡山荘

岡本毬子

(安道)

音のして落ちし木の実の見当たらず

木幡山荘

小林湖村

(安道)

山荘は山のポケット木の実降る

木幡山荘

山崎洋子

(大田)

秋風を選んで歩む白き杖

木幡山荘

杉井きみえ

(安道)

やがて地に還る華やぎ散紅葉

木幡山荘

山崎君枝

(大田)

山荘を町の顔とし秋惜しむ

木幡山荘

伊藤英子

(安道)

晴れるらし银杏黄葉の明るさに

木幡山荘

上田勉

(松江)

十二神将侍る御堂の霧傷み

木幡山荘

吉岡和子

(松江)

瑠璃^{るり}堂^{どう}に望む宍道湖鴨渡る

宍道湖

高木朱星

(松江)

木の実落つ寿像向き合ふこともなく

木幡山荘

小林湖村

(安道)

常山木の実古刹の跡の薬師堂

木幡山荘

渡部昌石

(出雲)

山荘にひよどりの声けたたまし

木幡山荘

曾田宣

(安道)

鳶の笛時折高く谷紅葉

木幡山荘

太田江女

(安道)

花石路へ庭下駄揃へお成りの間

八雲本陣

佐藤やえ子

(出雲)

石切場は風のたまり場紅葉舞ふ

来待ストーン

西村松子

(松江)

猪追ひし神の宴の椎拾ふ

石宮神社

久屋三秋

(出雲)

謎深き石宮の杜薄紅葉

石宮神社

安田菜翁

(安道)

冬



(吹月堂 雪景色)

陶榻とうたに緑蔭りよくの冷ひやありにけり

木幡山莊

高木朱星

(松江)

山莊の鳥語とりごこぼるゝ青木あおきの実

木幡山莊

福村ミサ子

(松江)

溜塗りゅうずの象ぞう嵌光くわんこうる冬灯

菟古館

金山栄子

(松江)

落葉らくえつ焚たきく山莊守さんしやうしゆの黙々もくまと

木幡山莊

池田都瑠女

(松江)

大櫂おほさき嗶しわがれ声こゑの寒かん鴉がらす

木幡山莊

渡部鯨舟

(松江)

薬師堂やくしだうの辺へりもつとも鴝こ高音こうおん

木幡山莊

庄司春芳

(宍道)

冬の灯あかりに時代じだいを語り漁具いさなぐ農具のうぐ

菟古館

原黙耕

(斐川)

野仏のぶつに足あしを止めれば笹鳴ささなけり

木幡山莊

久家希世

(平田)

お茶室ちやしつの柱はしら歪よこしまや白障子しろむすし

木幡山莊

坂口恵子

(鳥取)

縁ゆかり小春翁こはるおきなが遺愛いあいの煙草盆えんそうひん

木幡山莊

富田きよし

(斐川)

山莊の冬には冬の景色かな

木幡山莊

橘 栄春 (境)

昼灯す吹月堂や山眠る

木幡山莊

布施里詩 (斐川)

冬一番山莊の木々応えけり

木幡山莊

鷲野蘭生 (安来)

臘梅ろうばいや山懐に風絶えて

木幡山莊

岡崎赤花 (松江)

枇杷の花掲げ板戸の御手洗

木幡山莊

糸賀白汀 (大社)

雲に入るまでの日を恋ひ帰り花

木幡山莊

小玉三嶺 (米子)

散り落葉乾く匂ひの山日和

木幡山莊

山内真砂子 (米子)

大粒の渡来の清の数珠に雪

菟古館

遠所るり実 (松江)

寒竹の子に吊灯笼さび鏗ふかむ

木幡山莊

安達波外 (松江)

堂縁に心あずける小六月

木幡山莊

富岡秋美 (斐川)

童子仏草に埋れし帰り花	木幡山荘	太田江女	(宍道)
天辺に笈かへして冬の鴟	木幡山荘	青木登美子	(大社)
一重こそふさはし荘の冬椿	木幡山荘	山口草雨	(平田)
返り咲く菖蒲袷紗 <small>あきさ</small> を解くごとく	木幡山荘	石飛明子	(大社)
落葉して一万坪の荘の寂	木幡山荘	佐藤やえ子	(出雲)
カメラマン落葉を浴びてモデル追ふ	木幡山荘	田中伸緒	(宍道)
折からの落葉時雨に火焰 <small>かえん</small> 佛 <small>ぶつ</small>	木幡山荘	原邦子	(松江)
不老門入ればちろちろ庭焚火	木幡山荘	井原満寿洋	(松江)
神在の山荘に見るひらた船	木幡山荘	田中瓶草	(大田)
落葉搔く今年の心洗ひけり	木幡山荘	福島家紋子	(宍道)

落葉踏む小さな坂や薬師堂

木幡山莊

矢野吐翠

(宍道)

落葉降れば御目またたく窟不動

木幡山莊

木幡冬馬

(宍道)

冬灯 螺鈿らでんの光る絵巻函

菟古館

糸川ふみを

(宍道)

紅葉谷山茶花咲いて濃く淡く

木幡山莊

糸賀雲従

(宍道)

山莊の景引き締めて冬椿

木幡山莊

久屋三秋

(出雲)

山莊の古井に落葉時雨かな

木幡山莊

大沢ハマ

(出雲)

御佛の思惟深めて冬に入る

木幡山莊

富田きよし

(斐川)

冬灯し軸の達磨の横睨み

菟古館

原菊枝

(斐川)

冬灯飛び出しそうに猛虎の絵

菟古館

坪内寂山

(加茂)

思惟佛ののっぺらぼうや冬の鶉

木幡山莊

福村ミサ子

(松江)

本陣の煤け草履や土間寒し	八雲本陣	坪内寂山	(加茂)
干拓地荒涼として冬の雨	安道湖	足立しげ女	(大東)
町川に汐のさしくる枯葎	安道湖	池田都留女	(松江)
路地ごとに鴨の湖あり宿場町	安道湖	安達波外	(松江)
庭下駄に本陣の印時雨けり	八雲本陣	塩野邦江	(大東)
冬の日には本陣の廊黒光る	八雲本陣	大澤ハマ	(出雲)
山荘の石みな仏落葉踏む	木幡山荘	江角米子	(斐川)
運一の裸婦の世界や冬清し	菟古館	田中紀代香	(安道)
身に入むや石窟暗き不動尊	木幡山荘	小林梨花	(平田)
刎ね釣瓶こわれしままや荘の冬	木幡山荘	山崎朝子	(平田)

神在の 鷗かもめ 高舞ふ 宿場町

宍道町 万代紀子 (東出雲)

石を切る 一念一打の音 冴ゆる

来待ストーン 佐藤やえ子 (出雲)

来待ストーン 石のトンネルそぞろ寒

来待ストーン 園 ふみ子 (平田)

猪石に日の斑ふの遊ぶ小春かな

石宮神社 福村ミサ子 (松江)

雨曝し日曝しの神 落葉降る

石宮神社 三浦京子 (出雲)

雪しづる庭心して歩かねば

木幡山荘 景山みどり (境港)

亀島も鶴島も雪積みにけり

木幡山荘 坂口恵子 (会見)

山荘の一人の客に焚く暖炉

木幡山荘 岡崎赤花 (松江)

山荘に鳥語の減りて寒深む

木幡山荘 佐藤やえ子 (出雲)

足跡もなき山荘の冬紅葉

木幡山荘 野津清幸 (松江)

臘梅の香を聞きたくて遠まわり	木幡山荘	杉井きみえ	(安道)
寒椿心にしみる暖かさ	木幡山荘	横田直樹	(広島)
名残り雪溶けて新たな息吹き見ゆ	木幡山荘	神徳智恵	(東京)
忘れ井戸落葉むかしを聞きにくる	木幡山荘	高木酔子	(安道)
陶榻の凍ては背筋をのぼりけり	木幡山荘	鷺野蘭生	(安来)
山荘へ一人の巾の雪搔かれ	木幡山荘	長谷川杜人	(安来)
風邪気味に生姜湯嬉し菟古館	木幡山荘	糸賀雲従	(安道)
箒目の凍てにつまづく荘の庭	木幡山荘	青木敏子	(斐川)
茶をすする音のほかなき雪の庵	木幡山荘	山本勲	(安道)
風花やわが手に乗りて語りかけ	木幡山荘	宅和恵子	(松江)

冬木立岩室座像法衣朽ち

木幡山荘

庄司徳三郎

(実道)

雪折が静寂やぶる吹月堂

木幡山荘

五百川福勇

(実道)

水深く沈みてもなほ紅椿

木幡山荘

高木草央

(加茂)

枝折の突き刺さるまま池凍つる

木幡山荘

堀江典子

(米子)

木幡吹月・藤原杏池両先生遺詠
金森柑子先生近詠

木幡吹月

天涯のままで虚無僧花火見る

秋の竹切りて尺八つくらばや

夜神楽につかれ見え来し狂獅子

木を伐れば木の香がたちぬ花曇

秋風や風土記の湖に蜩搔く

真青なる火吹竹とり初竈

鍬だこの指を揃えて吹初めす

青空に虻あぶの生まるる桐の花

色鳥の一羽は征矢の迅さかな

天神を祭るこの里探梅行

藤原杏池

竹の葉に雨の沁み入る二月かな

白魚火のまたたかぬ灯とまたたく灯

心字池亀を遊ばせ水涼し

石佛に日のかげまぶし穴惑

数へ日の雨にせかれし庭を掃く

金森柑子

跳釣瓶上がりしまゝに木の葉降る

山荘に寺苑の名残り古椿

山荘の木の間湖や鳥曇

流れゆく雲より紅葉且つ散れり

甲羅干す亀に浮き寄り落椿

平成9年
 6月 第29回木幡山荘投句箱選句
 9月 第30回木幡山荘投句箱選句
 11月 第1回もみぢ俳句会(13日)
 12月 第31回木幡山荘投句箱選句
 3月 第32回木幡山荘投句箱選句
 3月 第9回吹月忌俳句会(19日)
 6月 第33回木幡山荘投句箱選句
 9月 第34回木幡山荘投句箱選句
 11月 第2回もみぢ俳句会(11日)
 12月 第35回木幡山荘投句箱選句
 3月 第36回木幡山荘投句箱選句
 3月 第10回吹月忌俳句会(31日)
 6月 第37回木幡山荘投句箱選句
 9月 第38回木幡山荘投句箱選句
 11月 第3回もみぢ俳句会(10日)
 12月 第39回木幡山荘投句箱選句
 3月 第40回木幡山荘投句箱選句
 3月 第11回吹月忌俳句会(23日)
 6月 第41回木幡山荘投句箱選句
 9月 第42回木幡山荘投句箱選句
 11月 第4回もみぢ俳句会(16日)

平成8年
 6月 第29回木幡山荘投句箱選句
 9月 第30回木幡山荘投句箱選句
 11月 第1回もみぢ俳句会(13日)
 12月 第31回木幡山荘投句箱選句
 3月 第32回木幡山荘投句箱選句
 3月 第9回吹月忌俳句会(19日)
 6月 第33回木幡山荘投句箱選句
 9月 第34回木幡山荘投句箱選句
 11月 第2回もみぢ俳句会(11日)
 12月 第35回木幡山荘投句箱選句
 3月 第36回木幡山荘投句箱選句
 3月 第10回吹月忌俳句会(31日)
 6月 第37回木幡山荘投句箱選句
 9月 第38回木幡山荘投句箱選句
 11月 第3回もみぢ俳句会(10日)
 12月 第39回木幡山荘投句箱選句
 3月 第40回木幡山荘投句箱選句
 3月 第11回吹月忌俳句会(23日)
 6月 第41回木幡山荘投句箱選句
 9月 第42回木幡山荘投句箱選句
 11月 第4回もみぢ俳句会(16日)

平成10年
 3月 第12回吹月忌俳句会(22日)
 6月 第45回木幡山荘投句箱選句
 9月 第46回木幡山荘投句箱選句
 11月 第5回もみぢ俳句会(15日)
 12月 第47回木幡山荘投句箱選句
 3月 第48回木幡山荘投句箱選句
 3月 第13回吹月忌俳句会(22日)
 6月 第49回木幡山荘投句箱選句
 6月 第1回新緑俳句会(19日)
 11月 第6回もみぢ俳句会(14日)
 12月 第50回木幡山荘投句箱選句
 3月 第51回木幡山荘投句箱選句
 3月 第14回吹月忌俳句会(19日)
 6月 第52回木幡山荘投句箱選句
 6月 第2回新緑俳句会(18日)
 11月 第7回もみぢ俳句会(12日)
 12月 第53回木幡山荘投句箱選句

平成11年
 3月 第48回木幡山荘投句箱選句
 3月 第13回吹月忌俳句会(22日)
 6月 第49回木幡山荘投句箱選句
 6月 第1回新緑俳句会(19日)
 11月 第6回もみぢ俳句会(14日)
 12月 第50回木幡山荘投句箱選句
 3月 第51回木幡山荘投句箱選句
 3月 第14回吹月忌俳句会(19日)
 6月 第52回木幡山荘投句箱選句
 6月 第2回新緑俳句会(18日)
 11月 第7回もみぢ俳句会(12日)
 12月 第53回木幡山荘投句箱選句

平成12年
 3月 第14回吹月忌俳句会(19日)
 6月 第52回木幡山荘投句箱選句
 6月 第2回新緑俳句会(18日)
 11月 第7回もみぢ俳句会(12日)
 12月 第53回木幡山荘投句箱選句

編集後記

昭和六一年一〇月、菟古館の開館に併せ、隣接の木幡山荘も修復、開放がおこなわれました。そこで、俳句に造詣の深かった木幡吹月先生（昭和五八年三月没）の遺徳を偲ぶとともに、俳句を通して山荘を再発見していただきたいとの思いを込めて、山本 勲氏（初代菟古館館長）を中心に、小林湖村、糸賀雲従、木幡鷺城、目次翠泉等の諸氏が世話役となり山荘と菟古館に投句箱が設置され、また、吹月先生のご命日にちなんだ吹月忌俳句会が開催されました。その後、もみぢ俳句会（二一月）、新緑俳句会、（五、六月）が発足し、吹月忌俳句会、山荘投句箱とあわせ各地各方面から俳句同好会の方々、一般の方々のご参集をいただき、菟古館、木幡山荘での投句が広く知られるようになりました。

選者には藤原杏池先生をお迎えしてご教示をいただき、お退きになられてからは金森柑子先生に引き続きご教示をいただいております。

この度、第一五回吹月忌俳句会が開催されるにあたって、これまで菟古館、山荘での投句約三万句のうち、秀句四〇〇を選び広く紹介することとなりました。文化活動の一環となれば幸いです。意のあるところをお汲みとりいただき、ご高覧いただければ幸いです。木幡山荘も年々歳々色々の姿、形を見せ、一年三六五景とも言われています。皆様の新しい発見をいただきますよう期待し、ご来駕をお待ちしております。

吹月先生のご生前には編者の属する宍道俳句会にもご出席いただき、句会の際にはいつも笑顔で冗談を交えながらご指導をいただきました。当時の宍道俳句会には糸川露泉、藤原朶雲、糸川柳水、糸賀雲従、木幡鷺城、田中碧泉、小林湖村、五百川福勇、松本村童の諸氏が参加していましたが、互選で吹月先生の句が最高得点の時には相好を崩してお喜びになった姿が昨日のように懐かしく思い出されます。

最後になりましたが、一五年にわたってご指導を賜った木幡修代理事長、歴代菟古館館長、句会や投句箱を通してお世話いただいた宍道俳句会会員の皆さん、菟古館職員の皆さんには心より感謝申し上げます。

平成十三年三月

編集委員

糸賀雲従 小林湖村 糸川ふみを
伊藤英子 杉井きみえ

宍道町の四季を詠む

平成13年3月18日発行（第15回吹月忌）

編 著 宍道町俳句会（有志）

発 行 宍道町菟古館
島根県八東郡宍道町
大字宍道1715-2

印 刷 柏木印刷株式会社
松江市国屋町452-2



穴道町菟古館